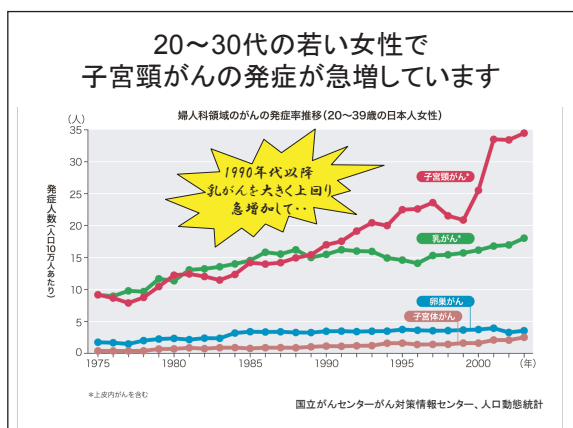


- ・子宮頸がんワクチン接種によるリスクと恩恵は？
- ・初めての学会参加と私の思春期時代
日本思春期学会に参加して
- ・新スタッフ紹介

子宮頸がんワクチン接種によるリスクと恩恵は？

村口きよ女性クリニック院長 村口喜代



★ 急増する若い女性の子宮頸がん

子宮頸がんは、乳がんについて罹患率が高いことはよく知られておりますが、特に20～30代では乳がんを超えて急増しています。毎年約1,500人の女性が新たに子宮頸がんにかかり、約3,500人が亡くなっています。この現実には愕然とさせられます。きちんとがん検診を受ければ早期診断・治療でほぼ100%克服可能な病気なのですから。

★ 子宮頸がんの原因はHPV(ヒトパピローウイルス)感染

子宮頸がんは、HPVの感染が起こり発症することは、ハラルド・ツア・ハウゼン博士のノーベル生理学医学賞の受賞(2008年)以来よく知られる

ようになりました。セックスがあれば誰でもHPVに感染し、その多くは免疫力でウイルスは排出されます。しかし、一部の人では感染が持続したまま、数年から数10年の経過でがんを引き起こします。

★ 思春期から性交経験し、長い未婚時代、複数のパートナーに出会う時代になって・・・

セックスがあれば子宮頸がんのリスクがある、10代からセックスがある社会になって、2004年からは、子宮頸がんの行政検診(地方自治体が費用の一部負担)が30歳から20歳に引き下げられました。女性の平均初婚年齢29.2歳、平均初産年齢30.1歳と上昇を続け、一方で結婚前に子宮頸がんにかかる女性が増えてきました。

★ 子宮頸がん予防ワクチンは、世界120カ国以上で承認されています

「子宮頸がんの発症がHPV感染による」ことが解明されたことで、ワクチンが開発されました(きよくりニュース10号、23号参照)。ワクチンによる予防接種対策が他国に比べ遅れをとってきた日本において、ようやく2011年からワクチンの公費負担が実施され、2013年4月から予防接種法が改正され、「任意接種から定期接種(引き起こされた副反応により、治療が必要になり、健康障害が生じた場合には、法に基づく補償を受けられる)」になりました。

★ 「ワクチン接種による副反応を調査・評価中、当面は定期接種を勧奨しない」(厚労省通達2013年6月14日)

一連のマスコミによる副反応報道等の影響により、接種に不安を抱く女子や保護者がいらっしやと思います。どんなワクチンでも副反応がまったくないというものは在りません。ワクチン接種で約70%の発症を減少させることが期待できます。ワクチン接種の可否は、リスクと恩恵の両方を正しく評価し、選択するものです。今回問題になった「複合性局所疼痛症候群」のリスクは約210万接種に1回(一人3回の接種として $210 \div 3 = 70$ 万人に1回、0.00014%の頻度)(2013年厚生科学審議会予防接種ワクチン分科会副反応検討会)と極めて低いものです。ちなみに日本人女性70万人あたりの子宮頸がん発症は、220人(30代では500人)という深刻な現実があるのです。

★ 定期的子宮頸がん検診を受けましょう ワクチン接種の有無に関わらず、検診は定期的に行う必要があります。

★ 質問、疑問、コメント等をお寄せください

十分な説明がなければ理解できないこともあるかと思います。診察の合間に、医師スタッフ等に遠慮なくお声をかけてください。

初めての学会参加と私の思春期時代

～第32回日本思春期学会に参加して～

医療事務 高橋智江

ある朝、休憩室のテーブルの上に置かれてある資料に私は目が止まりました。

『第32回日本思春期学会総会・学術集会』看護師の方々や事務の先輩から以前参加された学会の話聞き、私はとても興味を持ち是非参加してみたい！！と思い、今回一緒に連れて行ってもらいました。

今回の学会のテーマは「思春期の子供たちをとりまく環境と健康」で、思春期の子供達が抱える問題とその背景としての環境をとらえ、どのように子供達を支援していくかについて。性教育の実態や問題点、心の健康、ネット環境など多種多様な問題意識を持った参加者があいま集い、それぞれの立場から積極的に議論が行われました。

院長の発表演題「思春期妊娠中絶手術に際しての親への相談・同意のあり方とその変遷」では、「15歳以上の妊娠中絶において、『親の同意を強制しない』の立場をとってきたが2006年6月以降『積極的に親への相談を提案する』とし、初診時の状況、パートナーとの関係、親との関わりや親への相談状況を検討。結果、親へ相談できた者は以前65.2%に対して現在82.4%と増加、相談した際に親が受容し相談にのった者は80%から100%に増加した。思春期女性にとって予せぬ妊娠、そして中絶という意思決定もさることながら親への相談はとてつもなく大きなハードル。近年性行動の若年化・日常化が進む中、親の意識も変わりつつあり、受容できるようになっており、親への相談・同意を得るための環境が整いつつある」と発表されました。

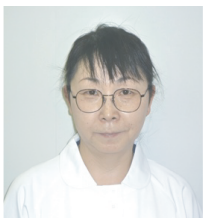
様々な思春期の子供達が抱える問題を聞いているうちに、いつの間にか私は自分の思春期時代を思い出し照らし合わせて聞いていました。思春期には身体の急激な変化と共に心にも変化が起こります。私はその時期、自分の急激な変化についていわず、自分自身をコントロールできずに初潮をむかえ身体の変化に戸惑いを感じていました。それまで何の違和感も感じなかった自分自身のことや友達のことが非常に気になったりする感情が芽生えてきました。そして自分の気持ちとは裏腹に親の一言一言がかんに障り、何も話したくない。イライラする。感情に振り回され、つっぱしる・・・いわゆる、反抗期が酷くて母親を凄く困らせ心配させた自分の姿。けれどもそんな私を必死で理解しようとしてくれた母の姿を思い出し、やるせない気持ちでいっぱいになりました。

今回学会に参加させて頂き様々な医療現場、教育現場で起きた思春期の子供達の問題を一生懸命支援する積極的な姿勢を強く感じました。また自分の思春期・反抗期時代に、たくさん迷惑と心配をかけてしまった両親への申し訳ない気持ちと感謝の気持ちに気付かされた貴重な体験となりました。この体験を生かし、少しでも当院に来られる患者様のお力になれるようこれからも精一杯頑張っていきたいと思います。



新スタッフ紹介

看護師 佐沼 美智子（さぬま みちこ）



2013年9月からスタッフの一員に加わりました。

今までは長く小児科外来に勤務しておりましたが、今回新たな分野で女性の心とからだのケアができるよう、一から勉強しなおす気持ちでおります。

相手の目線に立ち“思いやりの心”を忘れずにいたいと思います。よろしくお願いします。

年末年始の休診

○ 年末年始のお休みは、決まり次第 HP に掲載いたしますのでご確認ください。

編集後記

気づけばもう11月、2013年最後のきよくりNEWSになりました。気温の差が激しく体調を崩しやすい時期ですので、健康管理にはくれぐれも気をつけてくださいね 😊

